被爆75年企画展

広島平和記念資料館のあゆみ 第二部

8月6日へのまなざし

―資料を守り伝え続ける

期間

2021年2月27日(土)
～7月18日(日)

場所

広島平和記念資料館東館1階
企画展示室

入場無料

収蔵庫に収められた遺品

資料館の収蔵資料は被爆者や親族等から寄贈を受けたもので成り立っています。こうした資料を基に被爆の実相を伝える姿勢を開館以来貫く一方、新たな情報を追加し、さまざまな手法を取り入れながら、資料館は展示内容を変化させてきました。

今回の企画展は、「広島平和記念資料館のあゆみ」第二部として、1970年代から現在に至る資料館のあゆみを伝えます。現在、収蔵されている資料がどのような経緯で収集・整理されたのか、またどのような計画に基づき展示がつくられてきたのか。資料に向き合う人々の姿を通してその軌跡をたどります。

展示構成

- 開館以来最初の常設展示更新
- 新たな収蔵資料と展示の広がり
- 広島平和記念館との一体化へ
- 一人ひとりの姿を伝える

光が差し込む展示室（最初の改装前）

最初の改装後の展示室

収蔵資料に関する調査票の発送準備
1999年（平成11年）11月17日　中国新聞社提供

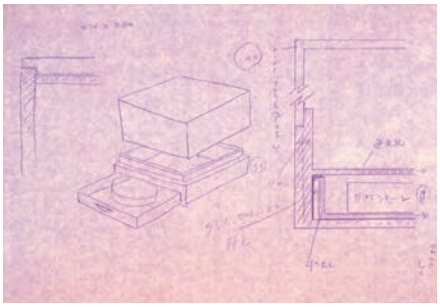
「もう二度と原爆の惨禍を繰り返さないために」資料館の、8月6日を見つめ伝える日々はこれからも続いていく。

資料館へ移設する広島陸軍被服支廠のレンガ塀の切り出し
1972年（昭和47年）

記念館で開かれた「ヒロシマ・ナガサキ返還被爆資料展」
1973年（昭和48年）8月7日　中国新聞社提供

収納ケースに入った資料の確認
1983年（昭和58年）7月15日
中国新聞社提供

似島から発掘された遺品



資料保存の対策を講じた展示ケースの図面
1975年（昭和50年）ごろ

〈表面の写真〉
左上／収蔵庫でアメリカへ貸し出す被爆資料の確認をする学芸員
1980年（昭和55年）4月4日　中国新聞社提供
右下／保存対策の工夫をした展示ケースに入った資料を見る来館者
1979年（昭和54年）8月6日　中国新聞社提供

問い合わせ先　広島平和記念資料館　学芸課　TEL 082-241-4004　FAX 082-542-7941
〒730-0811　広島市中区中島町1-2　ホームページ http://hpmmuseum.jp/